

高岡市埋蔵文化財調査概報第 69 冊

# 石塚遺跡調査概報 II

一般県道戸出高岡線交通安全事業にともなう

平成 21 年度、22 年度の調査

2010 年 12 月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第 69 冊

# 石塚遺跡調査概報 II

一般県道戸出高岡線交通安全事業にともなう

平成 21 年度、22 年度の調査

2010 年 12 月

高岡市教育委員会

## 序

「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西部に位置します。長年にわたる高岡市教育委員会の発掘調査等により、この地は、縄文時代後期より人々の生活が始まり、以後は弥生時代中期から現代にいたるまで脈々と我々の祖先がこの地で暮らしてきたことが明らかになっております。

このたび、一般県道戸出高岡線交通安全事業にともない、石塚遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、溝状遺構をはじめとする中世の歴史的様相が確認され、ここに発掘調査の報告書としてまとめました。本書を郷土における歴史探求や学術研究に、ご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、発掘調査の実施にご協力いただきました、関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成 22 年 12 月

高岡市教育委員会  
教育長 氷見哲正

## 例　　言

1. 本書は、一般県道戸出高岡線交通安全事業にともなう、石塚遺跡の発掘調査報告書である。
2. 当調査は、富山県高岡土木センターの委託を受け、高岡市教育委員会が実施した。
3. 屋外発掘作業及び整理作業については、高岡市教育委員会の監理のもと、民間発掘調査会社に業務委託をし、実施した。
4. 調査は、平成 19 年度から 22 年度にかけて工事の進行にともない順次試掘調査を実施した。
5. 本書にて詳細を記載する本発掘調査は平成 21 年度から 22 年度にかけて実施した。21 年度は株式会社 エイ・テックに、22 年度は株式会社上智にそれぞれ業務委託した。
6. 高岡市教育委員会の関係者は次のとおりである。

文化財課長	笹島 千恵子	(19 年度)
	東保 英則	(20 年度)
	大巻 宏治	(21 ~ 22 年度)
総括専門員	大村 友則	(19 ~ 21 年度)
	高田 克宏	(22 年度)
課長補佐	高田 克宏	(20 ~ 21 年度)
主　　幹	木林 弘吉	(19 年度)
	岡山 哲朗	(21 年度)
	中野 由美子	(22 年度)
副　　幹	山口 智	(19 ~ 21 年度)
主　　査	根津 明義	(21 ~ 22 年度)
	荒井 隆	(19 ~ 20 年度)
主　　任	栗山 雅夫	(19 ~ 21 年度)
嘱託職員	田上 和彦	(22 年度)
	道振 弘明	(22 年度)

高岡市埋蔵文化財調査概報第 69 冊

石塚遺跡調査概報 II

目 次

序

例 言

目 次

第1章 序 説

1. 地理的環境	1
2. 周辺の遺跡	2
3. 調査経過	3

第2章 平成 21 年度の調査

1. 調査の概要	4
2. 遺構	5
3. 遺物	7

第3章 平成 22 年度の調査

1. 調査の概要	8
2. 遺構	8
3. 遺物	9

第4章 結 論

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位図 (1/150000)

第3図 調査地区位置図 (1/2500)

第2図 遺跡分布図 (1/25000)

## 図 面 目 次

図面○一 調査地区全体図 (21年度)

図面○八 調査地区全体図 (22年度)

図面○二 遺構平面図 [1] (21年度)

図面○九 調査地区遺構平面図 [1] (22年度)

図面○三 遺構平面図 [2] (21年度)

図面○一〇 調査地区遺構平面図 [2] (22年度)

図面○四 土坑SK 01～03・05・07～09実測図 (21年度)

図面一一 調査地区遺構平面図 [3] (22年度)

図面○五 溝SD 01・06・07実測図 (21年度)

図面一二 溝SD 14・15実測図 (21年度)

図面○六 溝SD 09・10・11実測図 (21年度)

図面一三 出土遺物実測図 (22年度)

図面○七 出土遺物実測図 (21年度)

## 図 版 目 次

図版○一 1. 調査地区東側遠景 (南東)  
(21年度)

図版○六 1. 北側調査地区全景 (北東)  
(22年度)

2. 調査地区西側遠景 (南東)  
(21年度)

2. 南側調査地区全景 (南西)  
(22年度)

図版○二 1. 東側地区全景 (南) (21年度)  
2. 西側地区全景 (南) (21年度)

図版○七 1. 上坑SK 13完掘状況 (南西) (22年度)  
2. 上坑SK 15完掘状況 (北東) (22年度)

図版○三 1. 溝SD 01西側地区完掘状況 (東)  
2. 溝SD 01西側地区完掘状況 (北東)

図版○八 1. 溝SD 15土層断面 (東) (22年度)  
2. 溝SD 15完掘状況 (東) (22年度)

図版○四 1. 溝SD 09土層断面 (北西)  
2. 溝SD 09完掘状況 (南)

図版○九 出土遺物 (21年度)  
図版一〇 出土遺物 (22年度)

図版○五 1. 溝SD 09遺物出土状況遠景 (南)  
2. 溝SD 09遺物出土状況近景 (南)

## 第1章 序 説

### 1. 地理的環境

石塚遺跡は、高岡市街地の南西に位置し、祖父川と千保川に挟まれた「佐野台地」と呼ばれる標高約11mの微高地に立地する。

岐阜県高山市の烏帽子岳を水源とする全長約132kmの庄川が形成した扇状地の先端部に佐野台地と高岡台地が存在する。両台地は、現状では個別の段丘であるかに見えるが、本来は同一であった台地が周辺を流れる河川により侵食され、やがて分断されたものと考えられている。

また、両台地の縁辺には、湧水を水源とする小河川により形成された解析谷が多く存在しており、近現代に行われた圃場整備以前は、比較的比高差のある地形であったと考えられる。

東方に位置する高岡台地は現在の高岡市街地周辺となり、西方の佐野台地の多くは田園地帯が広がっている。考古学的な発掘調査は佐野台地において比較的顕著に行われており、その結果、縄文時代後期に人々の生活がはじまり、弥生時代中期以降には農耕を生業とする中核的集落が集落が台地の端部に形成され、以後、現代にまで歴史的な様相が存続する。



第1図 遺跡位置図 (1/150000)

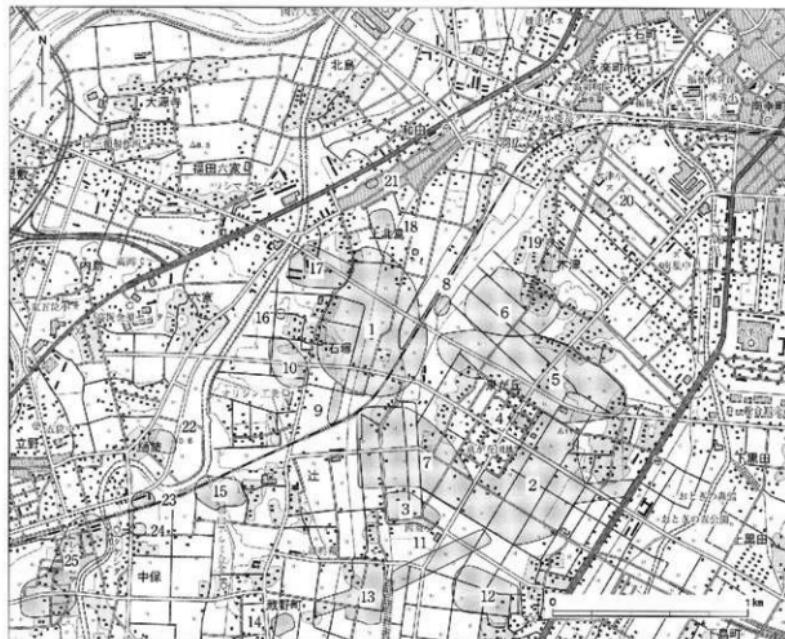
## 2. 周辺の遺跡

石塚遺跡は、富山県西部における弥生時代の集落遺跡として知られる。

地元住民の間では古くから耕作中に土器等の出土することが知られていたが、考古学的な発掘調査は、小島俊彰氏のもと高岡工業高校歴史クラブOB会（オジャラ会）が実施した発掘調査が最初である。昭和43（1968）年のことである。

このときの調査により、畿内第3様式の影響を受けた弥生土器やピット状遺構を確認し、同時代の遺跡であることが認識された。そして以後に行われた多くの発掘調査により、上記のほかにも縄文時代後・晩期や、弥生時代中期以降の各時代の歴史的様相が確認され、これにより縄文時代から近世に及ぶ大規模な複合遺跡と認識されるに至った。また、石塚古墳群の検出により、当該期においては首長層の存在することも明らかとなった。

遺跡の範囲は南北700m×東西500mをばかり、また、下図に示すように周辺には多くの遺跡が密集しております、「石塚遺跡群」と呼称されることもある。今回の調査地区は、「石塚遺跡」として指定する範囲の北西端にあたり、石塚江之戸遺跡と隣接する。



第2図 遺跡分布図 (1/25000) (平成21年度当時)

- |           |             |             |             |           |           |             |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 1. 石塚遺跡   | 2. 下佐野遺跡    | 3. 西佐野千代遺跡  | 4. 東ヶ丘池跡    | 5. 東木津池跡  | 6. 中木津遺跡  | 7. 石名瀬A遺跡   |
| 8. 石名瀬B遺跡 | 9. 石塚六方池跡   | 10. 石塚猿田遺跡  | 11. ES-18遺跡 | 12. 駒防池跡  | 13. 泉南遺跡  | 14. ES-19窓跡 |
| 15. 上遺跡   | 16. 石塚五表田遺跡 | 17. 石塚江之戸遺跡 | 18. 上北島池跡   | 19. 西木津遺跡 | 20. 北木津遺跡 | 21. 下北島住吉遺跡 |
| 22. 猿田遺跡  | 23. 中保C遺跡   | 24. 中保A遺跡   | 25. 中保B遺跡   |           |           |             |

### 3. 調査経過

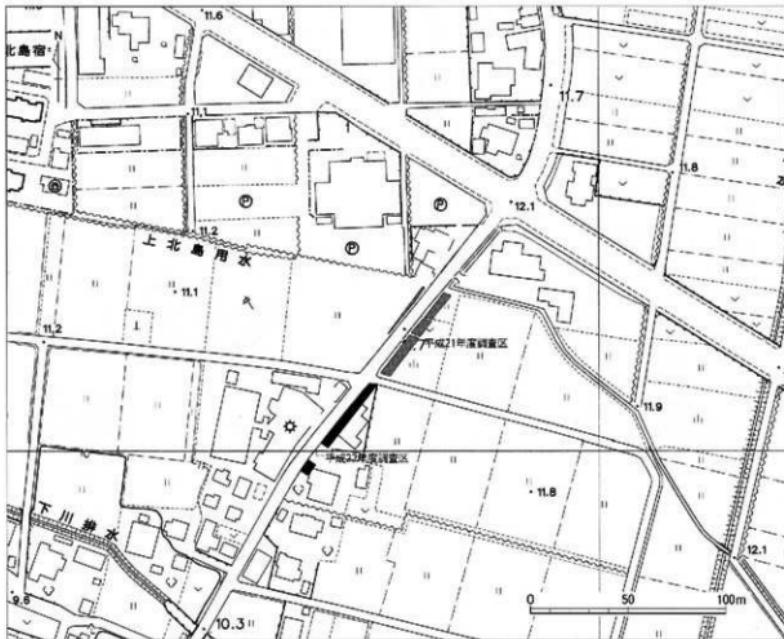
平成21年度の発掘調査は、高岡市教育委員会の監理のもと、株式会社エイ・テックが実施した。

調査は7月15日に東側地区北側より開始し、まずはバックフォーで表土を除去しながら遺構検出を行った。この東側地区では、昨年度の試掘調査で確認した溝をはじめ、調査地区全域にわたり遺構が確認された。8月11日に空中写真撮影を実施し、同月19日に埋め戻しを行い東側地区的調査を終了した。

現況が水田であった西側地区は、すでに作付が行われていたため収穫期を待ち9月30日から調査を開始した。調査地区が狭小であるため表土除去は人力で行わざるをえなかったが、調査の進行にともない東側地区で確認した溝の延長部分のほか、中央から南側では落ち込みなどを確認した。10月5日には空中写真撮影を実施し、同月7日に埋め戻し作業を実施し、調査を終了した。

平成22年度の調査は、前年度と同様に高岡市教育委員会が監理をするなか、株式会社上智が実施した。前年度の調査地区と異なり、当該調査地区は宅地跡であったため、調査地区中央部にはコンクリートによる宅道および污水栓等の地下埋設物が設置されていたため、これを回避するかたちで調査地区を設定した。

調査は6月14日から実施した。まずバックフォーで表土を除去し、同月17日からは遺構の検出作業を実施した。当該調査地区では、試掘調査で確認された溝をはじめ、調査地区的北側や南側で遺構が確認されたが、中央部は後世の削平により遺構はあまり検出されなかった。7月7日には完掘写真撮影を実施し、その後は調査地区的測量作業を実施し、同月9日に調査を終了した。



第3図 調査地区位置図 (1/2500)

## 第2章 平成21年度の調査

### 1. 調査概要

#### 基本層序

東側地区では、約10cmの表土の下に礫や廃棄物を多量に含む、にぶい黄褐色砂質土層が約80cm堆積する。これは近午の造成による盛土と考えられるが、その盛土を除去すると、褐灰色粘質シルト層（旧耕作土）が堆積している。

さらにこの下位には包含層が堆積するが、にぶい黄褐色粘質シルト層（上層）と黒褐色粘質シルト層（下層）の2層に分かれる。

なお、包含層は調査区北側のみで確認された。包含層の下層は明黄灰色シルト層（地山）となる。西側地区では褐灰色粘質土質シルト層（耕作土）の下ににぶい黄褐色粘質土質シルト層（包含層）が堆積し、その下に明黄灰色シルト層（地山）が堆積している。

#### 検出遺構

検出遺構は次の通りである。

土坑11基（SK01～12）

溝13条（SD01～13）

ピット（P01～04）

#### 出土遺物

今回の調査で出土した土器類は、小片が多く、特に上師器類については磨耗が激しいため、時代や器種を特定できる資料に乏しいが、確認をした範囲では次の通りとなる。

土器類： 弥生上器、上師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、白磁、青磁、伊万里

（※ 瀬戸美濃・白磁・青磁・伊万里は組とのため図示していない）

石製品： 打製石斧

#### グリッド

調査地区的グリッドは、平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。

東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、X=1、Y=1の地点は、原点より西へ16.625km、北へ81.530km向かった位置である。一辺5m四方を一区画としてグリッドを割り付け、メッシュを表示した。

## 2. 遺構

### 土坑

#### 土坑SK01

東側地区北部(8,9)区で検出された円形を呈する土坑であり、長軸0.68m、短軸0.61m、深さは24cmを測る。遺物は出土していない。

#### 土坑SK02

東側地区北部(8,9)区で検出された不整橢円形を呈する土坑であり、南側ではSK03が隣接する。長軸0.79m、短軸0.30m、深さは8cmを測る。遺物は出土していない。

#### 土坑SK03

東側地区北部(8,9)区で検出された不整橢円形を呈する土坑であり、北側ではSK02が隣接する。長軸0.74m、短軸0.38m、深さは4cmを測る。遺物は出土していない。

#### 土坑SK04

東側地区北部(8,8)区で検出された不整形を呈する土坑で、規模は長軸0.40m以上、短軸0.25m以上、深さは11cmを測る。南東側は調査区外に達する。遺物は出土していない。

#### 土坑SK05

東側地区中央部(6,6)区で検出された橢円形を呈する土坑であり、東側ではSD08が隣接する。長軸0.45m以上、短軸0.58m、深さは21cmを測る。北側は調査区外へと達する。出土遺物は珠洲である。

#### 土坑SK06

東側地区中央部(6,6)区で検出された不整形を呈する土坑で、西側ではSD08が隣接する。長軸0.23m以上、短軸0.29m、深さは3cmを測る。北側は調査区外へと達する。遺物は出土していない。

#### 土坑SK07

東側地区中央部(6,6)区で検出された不整橢円形を呈する土坑で、長軸0.88m、短軸0.30m、深さは8cmを測る。遺物は出土していない。

#### 土坑SK08

東側地区南部(4,4)区で検出された橢円形を呈する土坑で、長軸0.56m、短軸0.46m、深さは10cmを測る。出土遺物は年代不明の土師器である。

#### 土坑SK09

東側地区南部(5,4・5)区で検出された不整橢円形を呈する土坑で、北側にP04、南側ではSK10が隣接する。規模は長軸2.60m以上、短軸1.43m、深さは24cmを測る。東側は調査区外へと延びる。遺物は出土していない。

#### 土坑SK10

東側地区南部(5,4)区で検出された不整橢円形を呈する土坑で、北側ではSK09が隣接する。長軸0.56m以上、短軸0.45m、深さは8cmを測る。遺物は出土していない。

#### 土坑SK11

西側地区中央部(5,9)区で検出された不整橢円形を呈する土坑で、長軸0.71m、短軸0.46m以上、深さは22cmを測る。西側は調査区外へ延びる。遺物は出土していない。

## 溝

### 溝 S D01

東側地区北部と西側地区的北部（7・9・10, 10～13）で検出された。北西～南東方向に走る溝で、規模は長さ14.10m以上、幅3.63～4.05m、深さ59cmを測る。北西・南東側は調査地区外へ延びる。

十層断面観察の結果、溝の重複を確認したため、埋没後に溝を再掘削したと考えられる。出土遺物は土師器・須恵器・珠洲である。図示した遺物は、図面07-2004・4002・4003である。

### 溝 S D02

東側地区北部（8, 8・9）区で検出された北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ3.26m以上、幅0.70m以上、深さ19cmを測る。北西・南西・南東側は調査地区外へ延び、またP01を切る。出土遺物は土師器である。

### 溝 S D03

東側地区北部（8・9, 9・10）区で検出された。北西～南東方向に走る溝でS D02と並行する。規模は長さ3.33m以上、幅0.40～0.62m、深さ5cmを測る。北側は調査地区外に延びS D04を切る。遺物は出土していない。

### 溝 S D04

東側地区北部（9, 9）区で検出された東西方向に走る溝で、規模は長さ1.70m以上、幅0.35～0.40m、深さ8cmを測る。東側は調査区外へ延びるが西側は収束する。S D03に切られる。遺物は出土していない。

### 溝 S D05

東側地区中央部（6・7, 7）区で検出された南北方向に走る溝で、規模は長さ3.23m以上、幅0.11～0.20m、深さ4cmを測る。北側は調査区外へ延びる。南側は一度収束し、再び出現して調査区内で収束する。S D06を切る。遺物は出土していない。

### 溝 S D06

東側地区中央部（6・7, 7）区で検出された東西方向に走る溝で、規模は長さ3.05m以上、幅0.40～0.61m、深さ12cmを測る。両端は調査区内で収束する。S D05に切られる。出土遺物は土師器である。

### 溝 S D07

東側地区北部（7, 8）区で検出された南北方向に走る溝で、規模は長さ0.55m以上、幅0.60、深さ10cmを測る。北側は調査区外へ延び、南側は収束する。遺物は出土していない。

### 溝 S D08

東側地区中央部（6, 6・7）区で検出された南北方向に走る溝で、規模は長さ4.35m以上、幅0.16～0.34m、深さ10cmを測る。北側は調査区外へ延び南側は収束する。西側に隣接するSK 05と東側に隣接するSK 06に挟まれ、S D05・S D12と並行して走る。遺物は出土していない。

### 溝 S D09

東側地区南部（4・5, 3～5）区で検出された南北方向に走る溝で、規模は長さ8.04m以上、幅2.42～2.78m、深さ34cmを測る。北側・南側とも調査区外へ延びる。S D03に切られる。出土遺物は土師器・珠洲・青磁・白磁・打製石斧である。

### 溝 S D10

東側地区南部（3・4, 3）区で検出された北東から南西方向に走る溝で、規模は長さ4.85m以上、幅1.46～1.90m、深さ27cmを測る。北東側と南西側は調査区外へ延びる。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器である。図示した遺物は図面07-1001・2003・3002である。

#### 溝SD11

東側地内K南部(3, 3)区で検出された北東から南西方向に走る溝で、規模は長さ1.82m以上、幅0.60~0.68m、深さ14cmを測る。北東側・南西側は調査区外へ延びる。北東側に隣接するSD10と並行して走る。出土遺物は年代不明の土師器である。

#### 溝SD12

東側地区中央部(6, 6)区で検出された南北方向に走る溝で、規模は長さ2.33m以上、幅0.12~0.22m、深さ4cmを測る。北側は調査区外へ延び、南側は収束する。

北側に位置するSD05とは同一延長線上に位置し、また造構の幅も類似するため同一の造構であった可能性がある。遺物は出土していない。

#### 溝SD13

西側地内中央部(6, 10)区で検出された北西~南東方向に走る溝で、規模は長さ1.10m以上、幅0.60~0.74m、深さ11cmを測る。北西側・南東側は調査区外へ延びる。遺物は出土していない。

### 3. 遺 物

#### 弥生土器

壺・甕 図面07-1001。弥生時代中期と考えられ、外面に条痕文を施す胴部片である。

#### 古墳時代の土器

##### 土師器

甕A 図面07-2001・2002。口頸部がくの字状にチリれる甕の口縁部である。

甕B 図面07-2003。複合口縁の甕である。

高杯 図面07-2004。口縁部・脚部が欠損した杯部片である。

#### 古代の土器類

##### 土師器・台付皿

図面07-3001。高台が付く皿の高台部分である。

##### 須恵器

杯 図面07-3002。杯の口縁部である。

壺 図面07-3003。壺の底部である。

#### 中世の土器類

##### 土師器・皿

図面07-4001~4004。成形手法は全て非ロクロの製品である。4001・4003は口縁部下部外面をヘラ削りする。4001は口縁部に油煙の付着が認められ、灯明皿としての使用が考えられる。

##### 珠洲・鉢

図面07-4005。鉢の口縁部である。

#### 石製品・打製石斧

図面05-5001に示した縄文時代のものとみられる打製石斧である。中央部から上半を欠損する。楔形もしくは分銅形を呈すると考えられる。刃部には使用に伴う消耗が見られる。

## 第3章 平成22年度の調査

### 1. 調査概要

#### 基本層序

今回の調査地区は一般県道戸出高岡線の西側に位置する。また、南北は平成21年度の本調査と試掘調査地区に接続された地点となる。

当該調査区における土層の堆積状況は、上位から順にまず造成時の盛土が約50～60cm程堆積しており、その下に旧耕作土（V層…平成21年度調査に対応）が20cm程度堆積する。

この旧耕作土直下には、明黄褐色シルト、あるいは灰白色シルト層の地山が堆積する。調査区の南側は盛土の下に擾乱層が広がっており、一部V層を残す部分が見られたが直下に地山が堆積している。

#### 検出遺構

検出遺構は次の通りである。

土坑3基（SK13～15）

溝2条（SD14～15）

ビット（P5～42）

#### 出土遺物

山上遺物は弥生土器、中世土師器、珠淵、青磁である。細片が多く出土量もわずかである。

#### グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36°00'00"・東経137°10'00"）に合わせた。

東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、X=A、Y=1の地点は、原点より西へ16,680km、北へ81,460km向かった位置である。一辺5m四方を一区画としてグリッドを割り付け、メッシュを表示した。

### 2. 遺構

#### 土坑

##### 土坑 SK13

北側調査区のM15グリッドで検出された。形状は梢円形を呈し覆土は灰色シルト層である。規模は長軸1.35m、短軸0.70m、深さ0.21mをはかる。遺物の出土はみられなかった。

##### 土坑 SK14

北側調査区のL13グリッドで検出された。形状は不整形を呈し中央部がやや隆んでいる。覆土は灰色シルト層を主体とし、黄灰色シルトも含んでいる。規模は長軸1.64m、短軸1.15m、深さ0.23mをはかる。遺物の出土はみられなかった。

##### 土坑 SK15

北側調査区の J10、J11、K10、K11 グリッドで検出された。形状は不整形を呈し覆土は灰色シルト層である。規模は長軸 2.18m、短軸 0.87m、深さ 0.25 m をはかる。遺物の出土はなかった。

## 溝

### 溝 SD14

北側調査区の L12 グリッドで検出された小溝で、覆土は灰色シルト層である。規模は全長 1.02m、幅 0.20m 深さ 0.14 m をはかる。遺物の出土はみられなかった。

### 溝 SD15

南側調査区の F4、F5、F6 グリッドで検出された。覆土は上層は褐灰色シルト、中層と下層は灰色や黒色系のシルト層が堆積する。

規模は全長は確認部分で 5.04m、幅 2.34m、深さ約 0.70 m をはかる。遺物の出土は 1 層から青磁甕 (4015)、7 層からは珠洲が出土している。時期は 13 世紀から 14 世紀代と考えられる。このような溝は平成 21 年度の調査でも同様の溝が確認されており、中世の区画溝と考えられる。

## ピット

ピットは全 38 基が確認されている。ほとんどの覆土は単層で灰色シルトや黄灰色シルトの覆土をもつものが顕著であった。

## 3. 遺 物

### 中世の土器類

#### 土師器・皿

図面 13 - 4006 ~ 4013。すべて非クロの手づくね成形である。多くは体部に強いヨコナデを施し、底部との境に明瞭な稜が形成されるものである。また、口縁部にも稜がつく二段ナデのものが半体を占めている。時期は 14 世紀代と考えられる。

#### 珠洲・甕

図面 13 - 4014。口縁部および底部は残存せず、体部上半の破片と考えられる。表側には叩き目、裏側にはタタキの際に用いられた當て具痕が見られる。

#### 青磁・碗

図面 13 - 4015。龍泉窯系のもので口縁部は若干端反り気味である。大宰府分類の III-a 類にあたり、13 世紀中頃から 14 世紀初頭にあたる。

## 第4章 結語

平成21年度及び22年度の調査において、中世を主体とする遺物や遺構を確認した。調査地区は遺跡範囲の西端に位置する。概して弥生時代の遺構は希薄な地点であり、当該調査においても明確な弥生時代の遺構を確認することが出来なかつた。

今回報告する両調査地区では、中世の区画溝と考えられる溝をはじめ、土坑やピットを確認している。遺物の出土は少量であったが、14世紀代にあたる中世土器器皿や中国陶磁、珠洲などが出土している。

調査地区とその周辺は、妙法院領福田庄に比定される範囲内となる。周辺の調査成果を俯瞰するに、石塚遺跡（新鮮市場地区）では5間×8間を越える大型孤立柱建物や区画溝が確認され、また、同遺跡（きばう地区）や（林地区）では井戸等が検出されている。

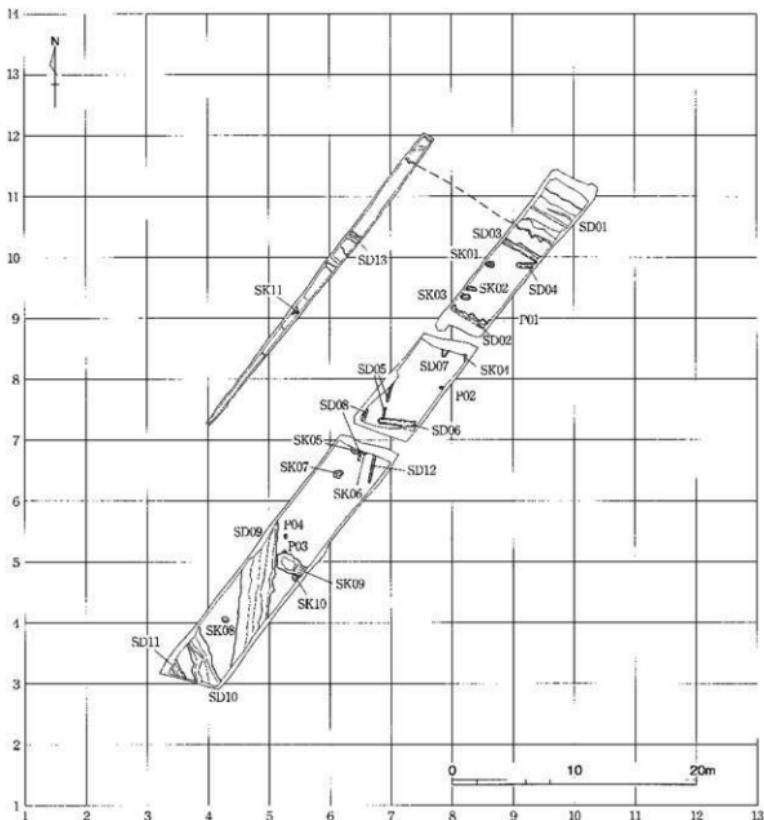
遺物についても概ね13世紀から14世紀の時期のものを中心に出土している。石塚遺跡と隣接する石塚江之戸遺跡でも、少量ながら珠洲などの中世の遺物が出土している。

今回報告をする石塚遺跡の21・22年度調査地区は、中世集落の様相を窺う資料としては上記3地区に比して少ないものの、中世福田庄に隣接する集落の一部を確認することが出来た可能性がある。今後の発掘調査によって石塚遺跡における中世段階の新たな知見に期待したい。

## 参考文献

- 高岡市教育委員会 2007 「石塚遺跡調査報告」『高岡市文化財調査報告第17冊』
- 高岡市教育委員会 2001 「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」『高岡市埋蔵文化財報告第7冊』
- 高岡市教育委員会 2001 「石塚江之戸遺跡調査概要」『高岡市埋蔵文化財調査概報第48冊』
- 高岡市教育委員会 2000 「市内遺跡調査概要X」『高岡市埋蔵文化財調査概報第45冊』
- 北陸中世土器研究会 1997 『中・近世の北陸』 桂香房
- 越前俄子 1996 「梅原胡麻堂遺跡出土中世土器器の辨定」『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財事務所
- 吉岡康輔 1994 「中世須恵器の研究」 古川弘文館
- 鈴木道之助 1991 『石器入門辞典 読文』 桜書房
- 高岡市 1957 『高岡市史 上』

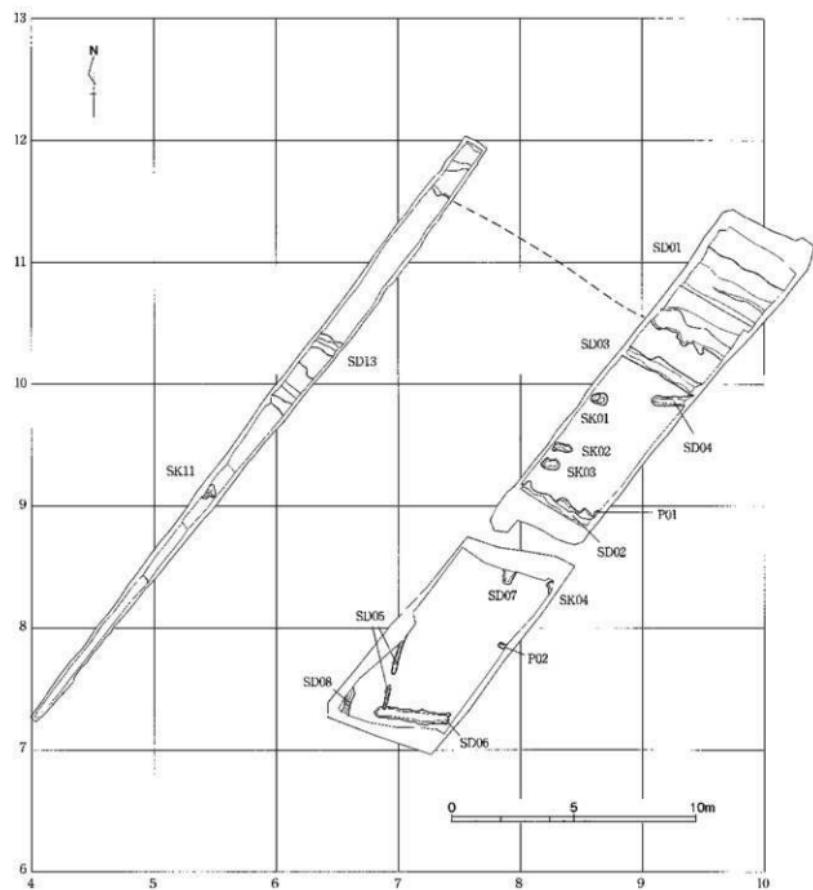
図面〇一 遺構実測図 石塚遺跡



調査地区全体図 (21年度)

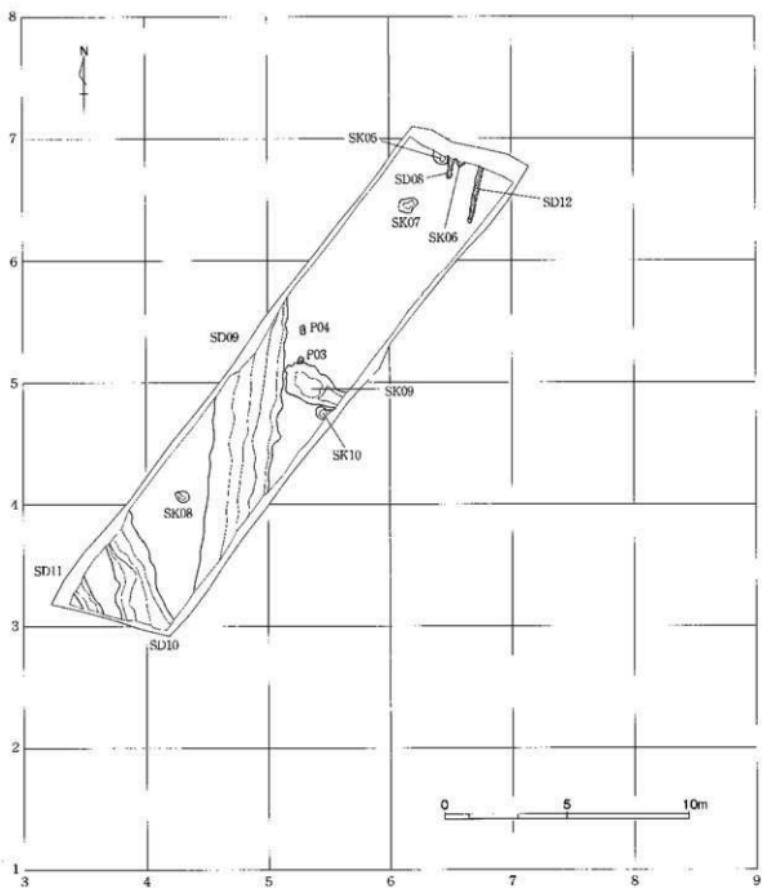
縮尺 1/400

図面〇一  
遺構実測図  
石塚遺跡



遺構平面図〔1〕 (21年度)

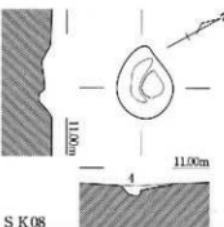
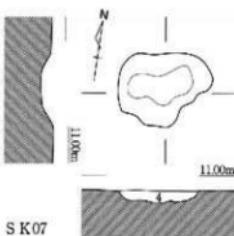
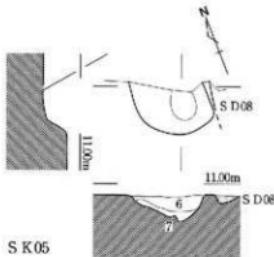
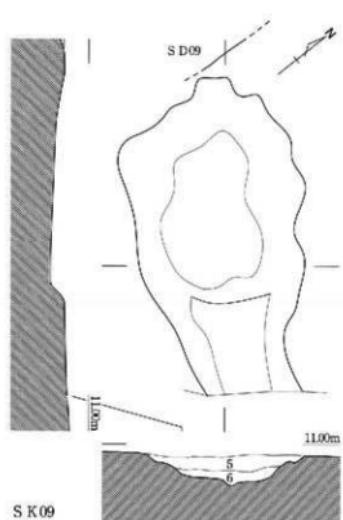
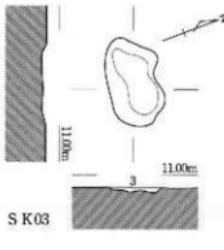
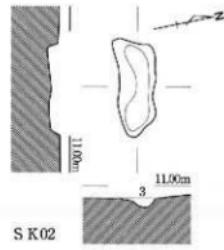
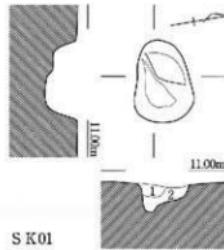
縮尺 1/200



遺構平面図〔2〕 (21年度)

縮尺 1/200

図面〇四 遺構実測図  
石塚遺跡



1. 灰青褐色シルト質粘土、褐灰色シルト質粘土上部土層。
2. 褐灰色シルト質粘土。灰青褐色シルト質粘土含む。
3. 黑褐色シルト質粘土。青灰色細粒砂シルト含む。
4. 褐褐色シルト、黄褐色土を少量含む。
5. 墓灰褐色シルト。
6. 灰灰褐色シルト。黄褐色土を少量含む。
7. 墓灰褐色シルト。青褐色土ブロック含む。

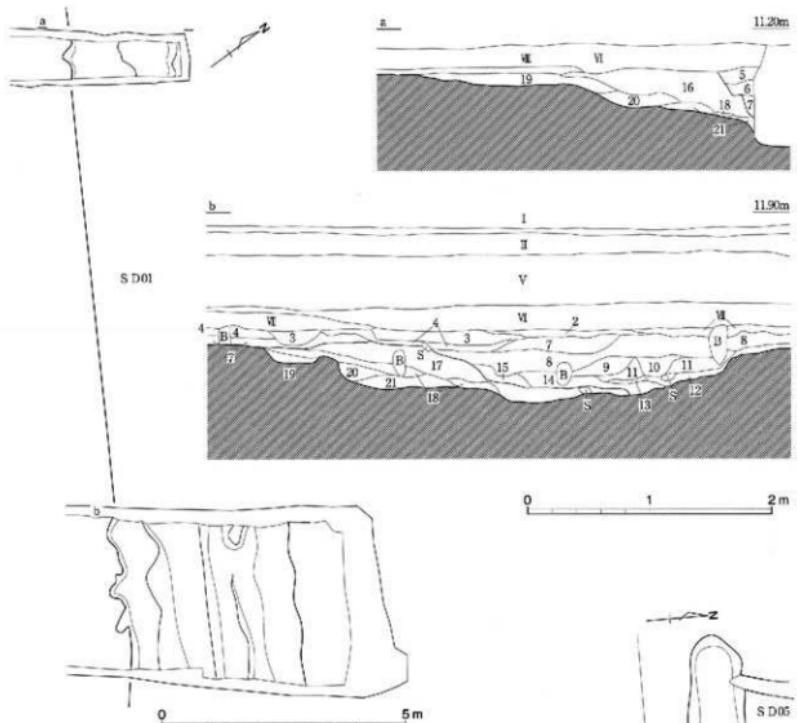
0 1 2 m

土坑SK01~03・05・07~09実測図 (21年度)

縮尺 1/40

図面〇五  
遺構実測図

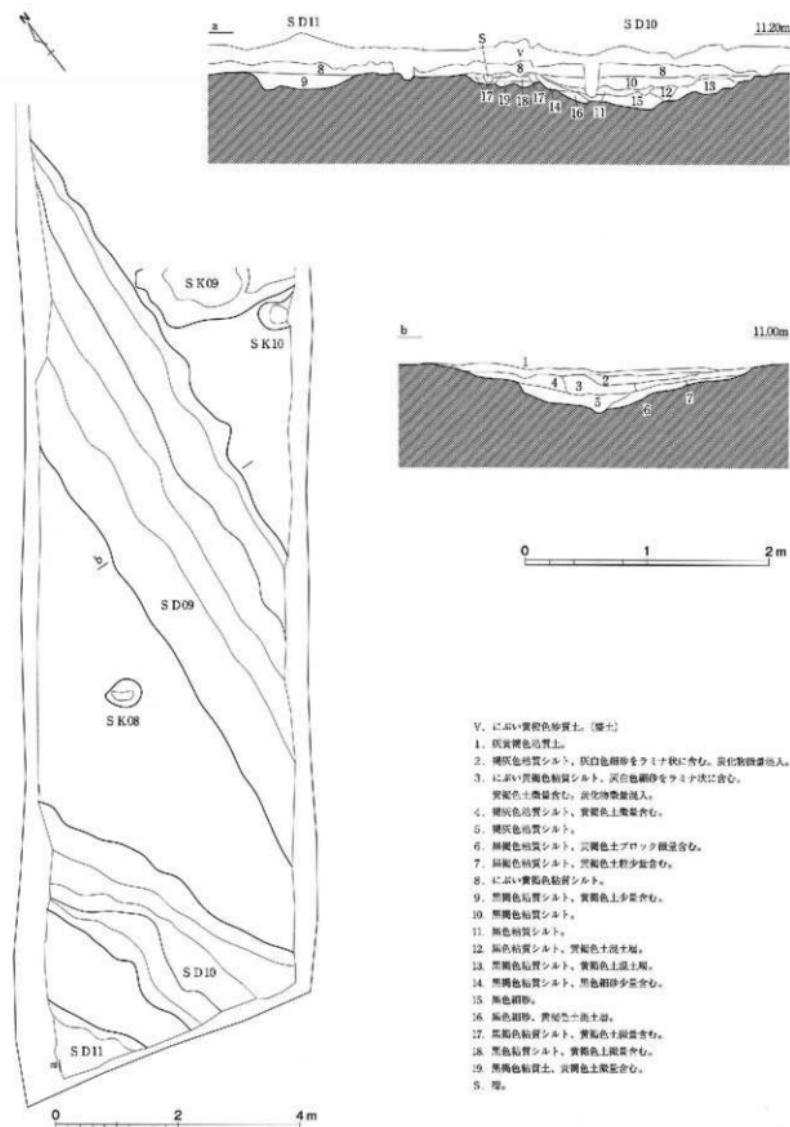
石塚遺跡



1. 黄褐色粘質シルト、黄褐色土粒多量含む。—SD06・07  
 2. に高い黃褐色粘質シルト。  
 3. 黄褐色粘質土。  
 4. に高い黄褐色粘質シルト。  
 5. 黄褐色粘質シルト、灰褐色土粒少量含む。  
 6. 黄褐色粘質シルト、黒褐色土ブロック少量含む。  
 7. 黄褐色粘質シルト、粘性でやわらかい。  
 8. 黄褐色粘質シルト、灰褐色少含む。  
 9. 黄褐色粘質シルト、灰褐色土ブロック少量含む。  
 10. 黄褐色粘質シルト、黄褐色土高土層。  
 11. 黄褐色粘質シルト、黒褐色土粒少量含む。  
 12. 黄褐色細砂、黒褐色土粒少量含む。  
 13. に高い黄褐色細砂。  
 14. 黄褐色粘質シルト、に高い黄褐色粘土層。  
 15. 黄褐色粘質シルト。  
 16. 黄褐色粘質シルト、黄褐色土粒少量含む。  
 17. 黄褐色粘質シルト、灰褐色土をチマ次に含む。  
 18. 黑褐色粘質シルト。  
 19. 黑褐色粘質シルト、黄褐色土ブロック少量含む。  
 20. 黄褐色粘質シルト、灰褐色細砂少含む。  
 21. 黄褐色粘質シルト、灰褐色土をチマ次に含む。

溝SD01・06・07実測図 (21年度)

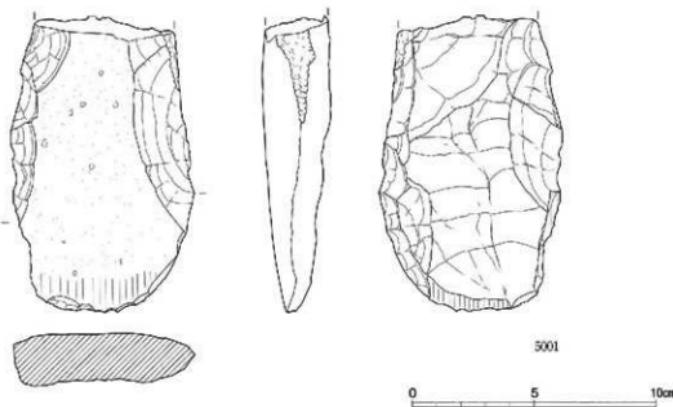
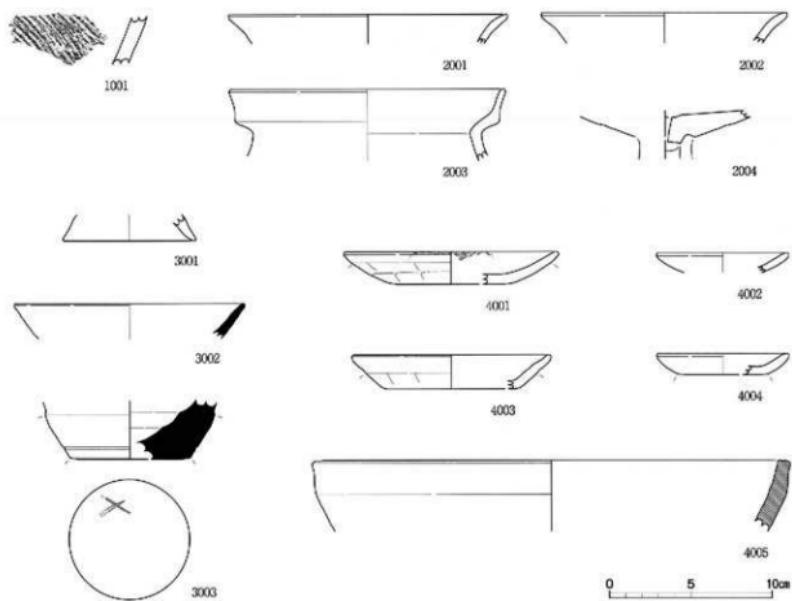
縮尺 1/100, 1/40



溝SD09・10・11実測図 (21年度)

縮尺 1/100, 1/40

圖面〇七 遺物実測図  
石塚遺跡

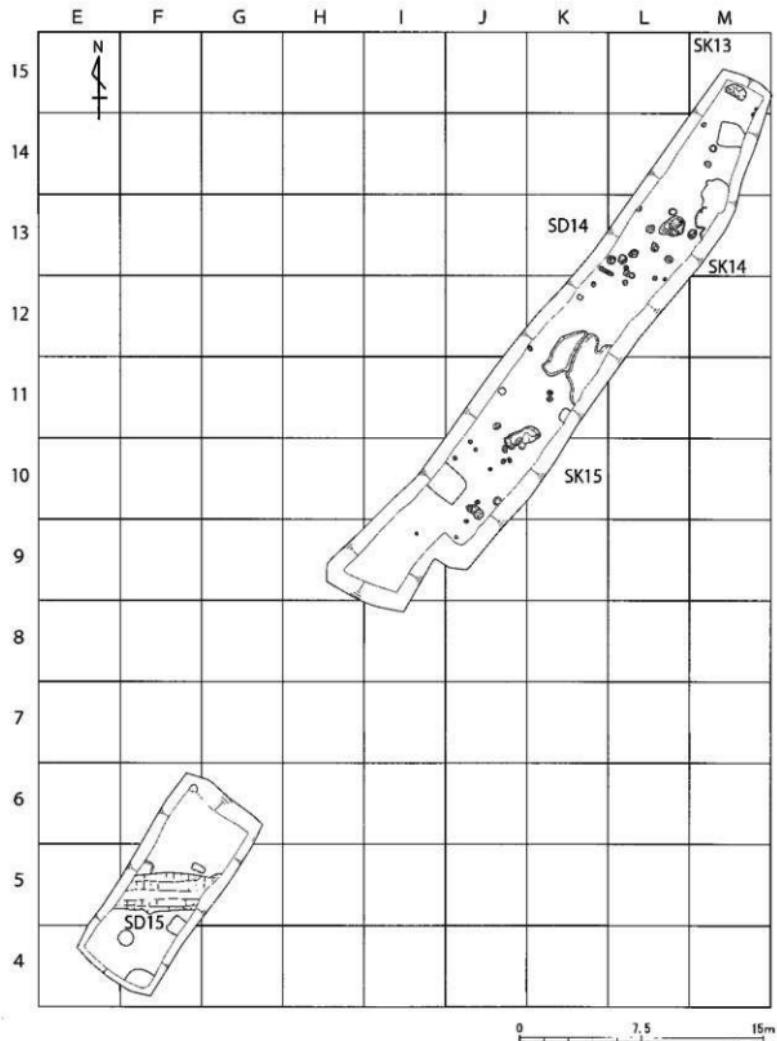


出土遺物 (21年度)

弥生土器 : 1001. 土師器 : 2001~2009. 須恵器 : 3001~3002. 珠洲 : 4001

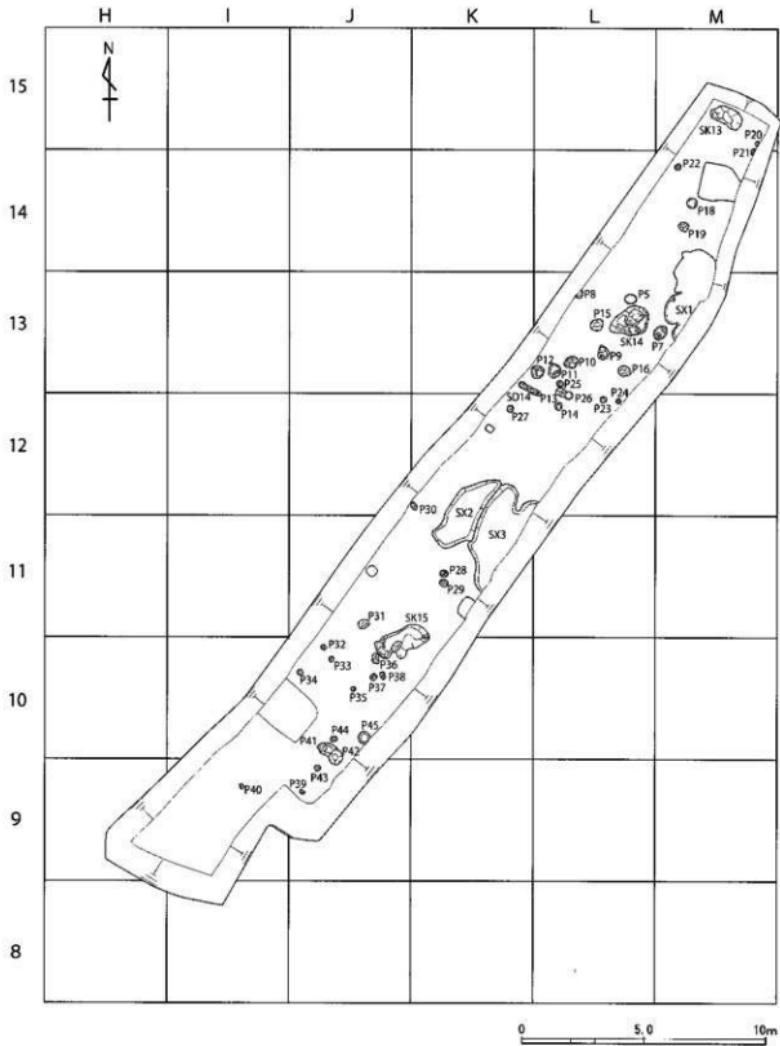
打製石斧 : 5001

縮尺 1/2, 1/3



調査地区全体図 (平成22年度)

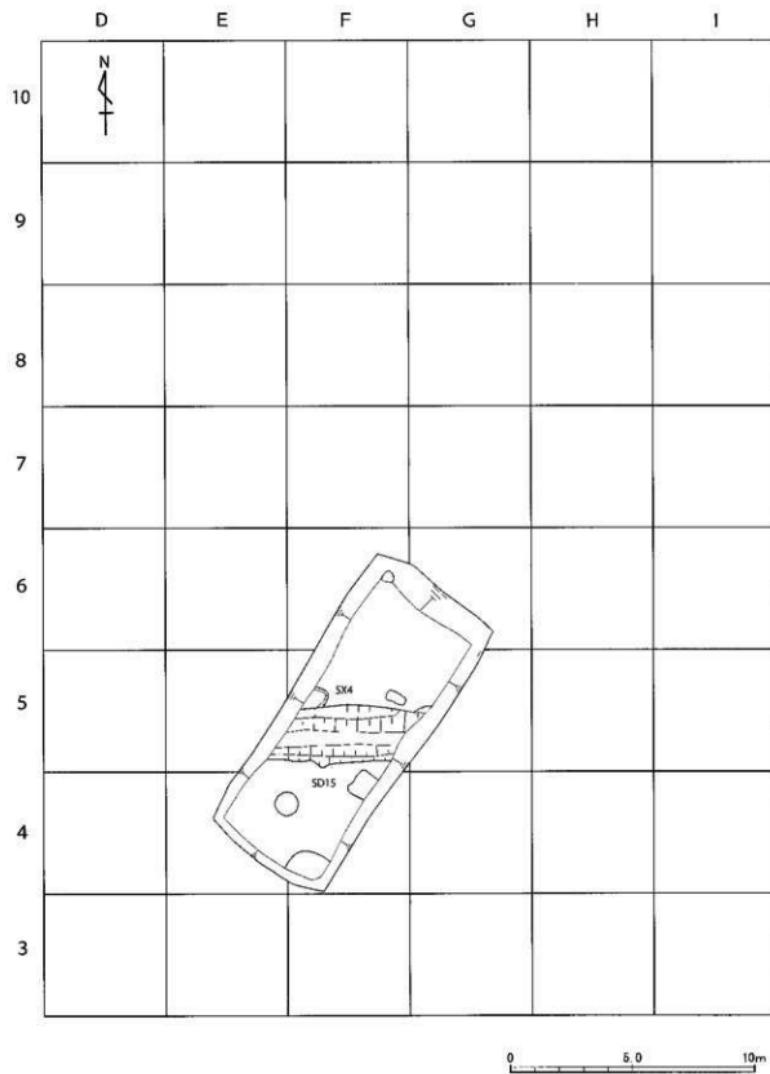
縮尺 1/300



### 調査地区構造平面図 [1] (22年度)

縮尺 1 /200

図面一〇 遺構実測図 石塚遺跡

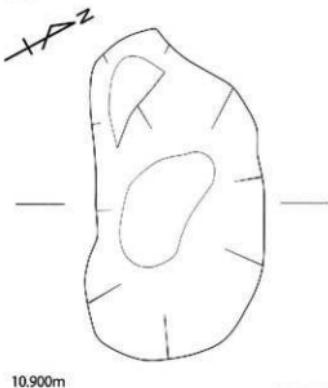


調査地区遺構平面図〔2〕（22年度）

縮尺 1/200

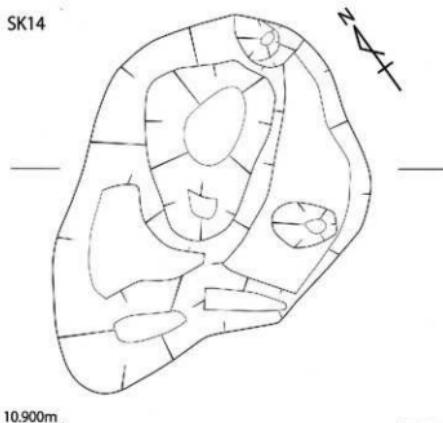
図面一一 造構測量図 石塚遺跡

SK13

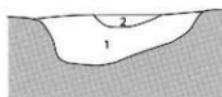


10.900m

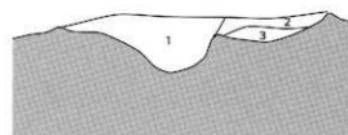
SK14



10.900m

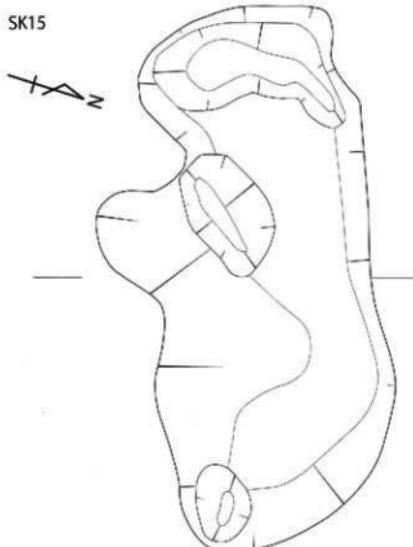


1. 5N灰色シルト粘質土(鉄分少し含む)
2. 2.5Y8/1灰白色ブロック

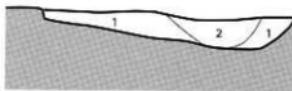


1. 5N灰色シルト粘質土(鉄分少し含む)
2. 2.5Y5/1黄 灰色シルト粘質土(地山土まじる)
3. 2.5Y4/1黄 灰色シルト粘質土(地山土まじる)

SK15



10.900m

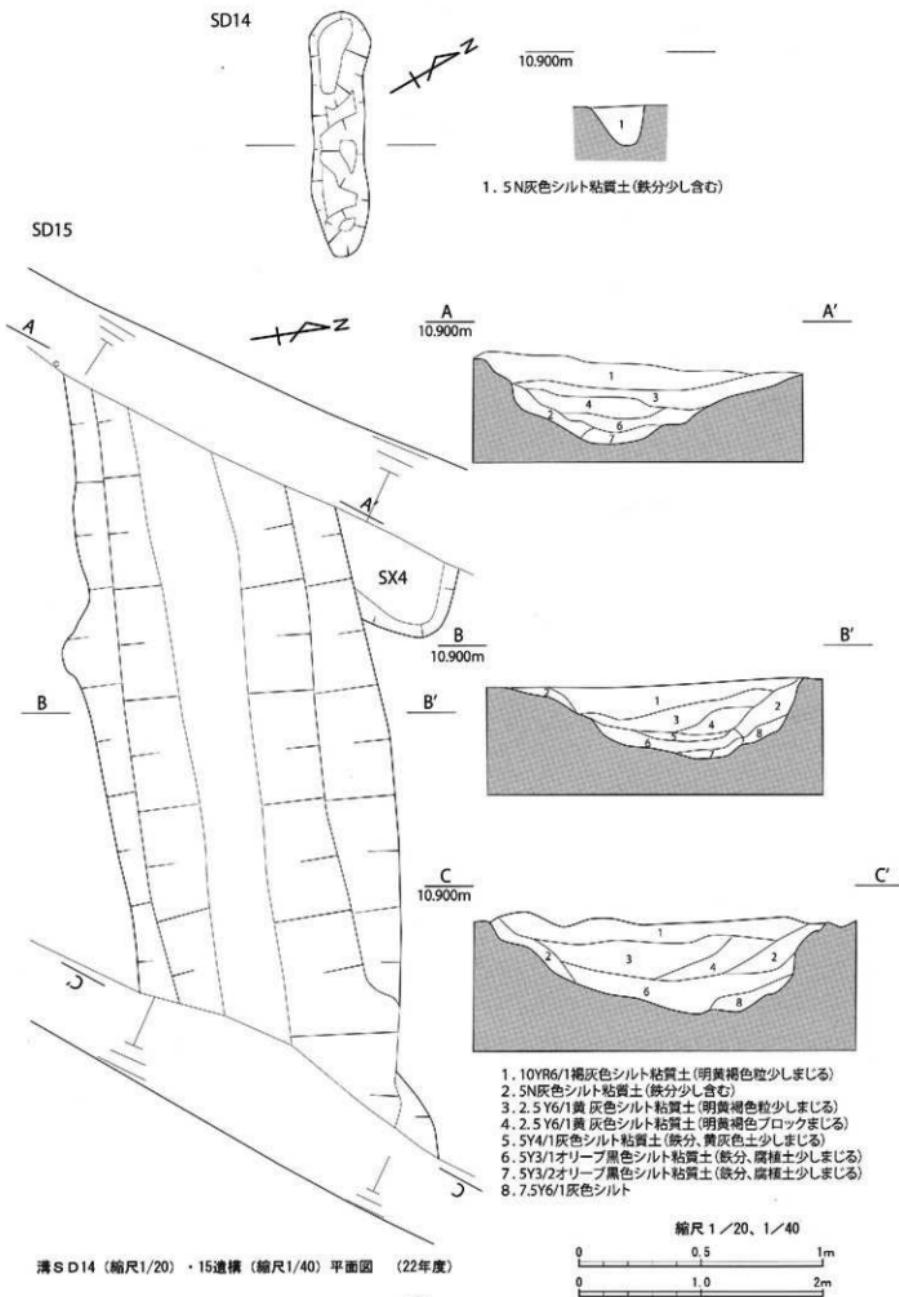


1. 5N灰色シルト粘質土(鉄分少し含む)
2. 6N灰色シルト粘質土(鉄分少し含む)

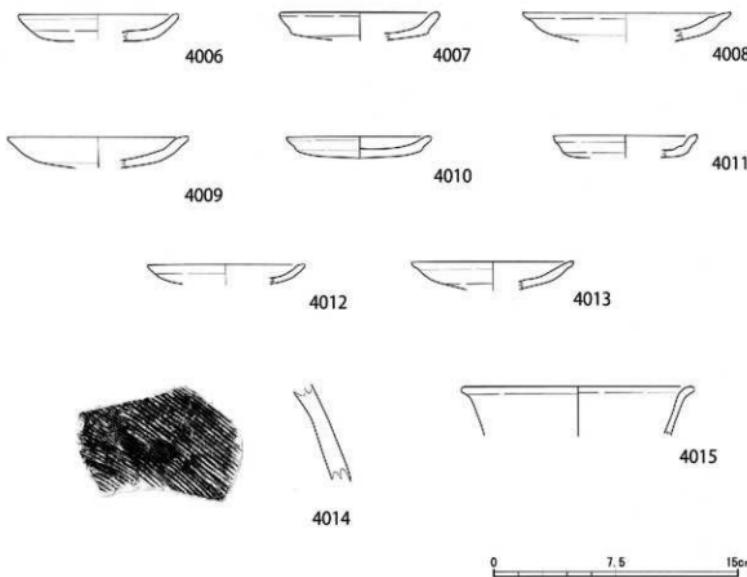
0 0.5 1m

調査地区造構平面図〔3〕(平成22年度)

縮尺 1/20



図面一三  
遺物実測図  
石塚遺跡



土器類

中世土師器：4006～4013. 珠洲：4014. 青磁：4015

出土遺物実測図 (22年度)

縮尺1/3



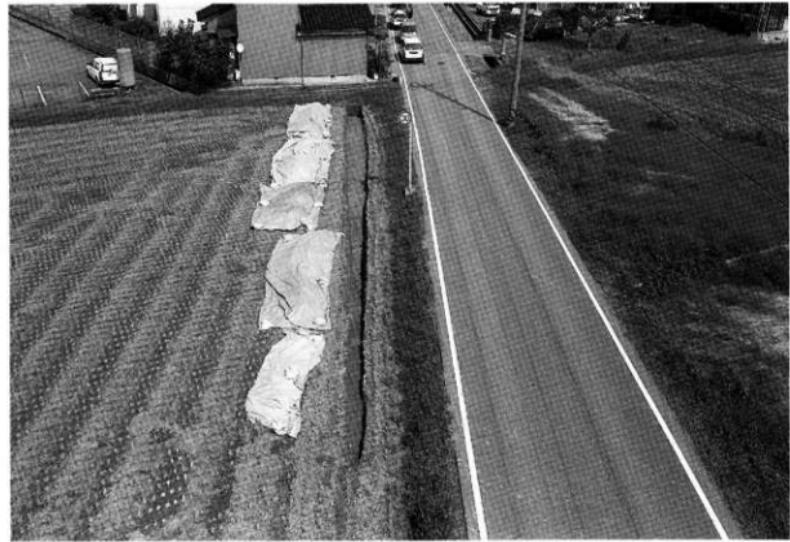
1. 調査地区東側遠景（南東） 21年度



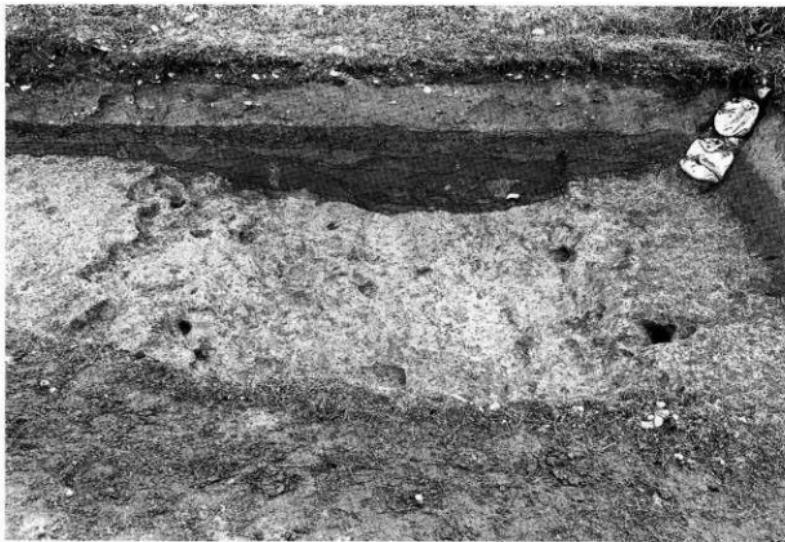
2. 調査地区西側遠景（南東） 21年度



1. 東側地区全景（南） 21年度



2. 西側地区全景（南） 21年度



1. 溝SD01西侧地区発掘状況（東） 21年度



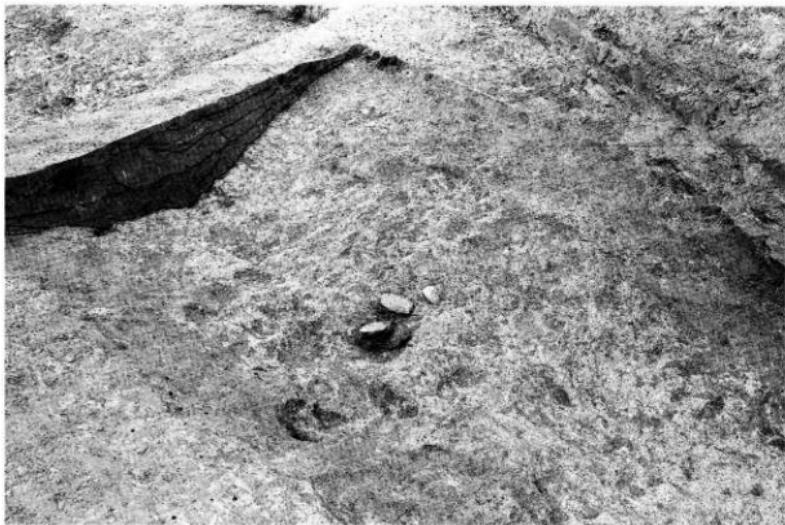
2. 溝SD01西侧地区発掘状況（北東） 21年度



1. 溝SD09土層断面（北西） 21年度



2. 溝SD09完掘状況（南） 21年度



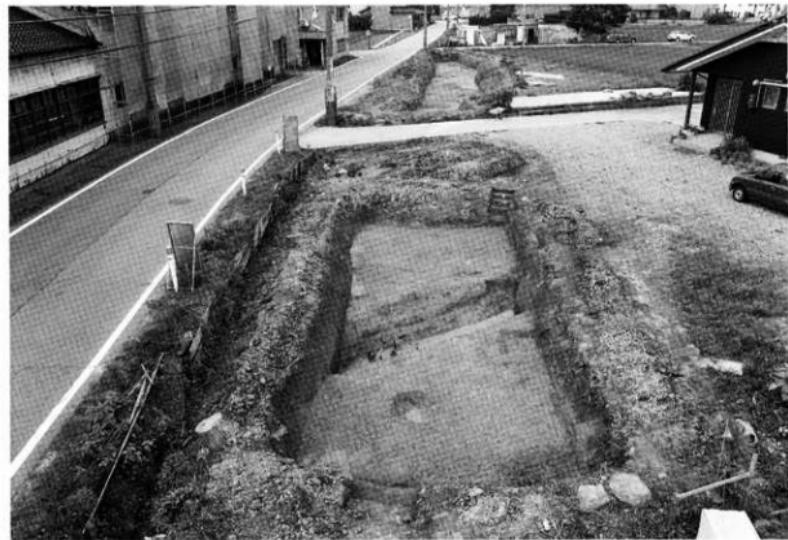
1. 清 S D09遺物出土状況遠景（南） 21年度



2. 清 S D09遺物出土状況近景（南） 21年度



1. 北側調査地区全景（北東） 平成22年度



2. 南側調査地区全景（南西） 平成22年度



1. 土抗SK13完掘状況（南西） 22年度



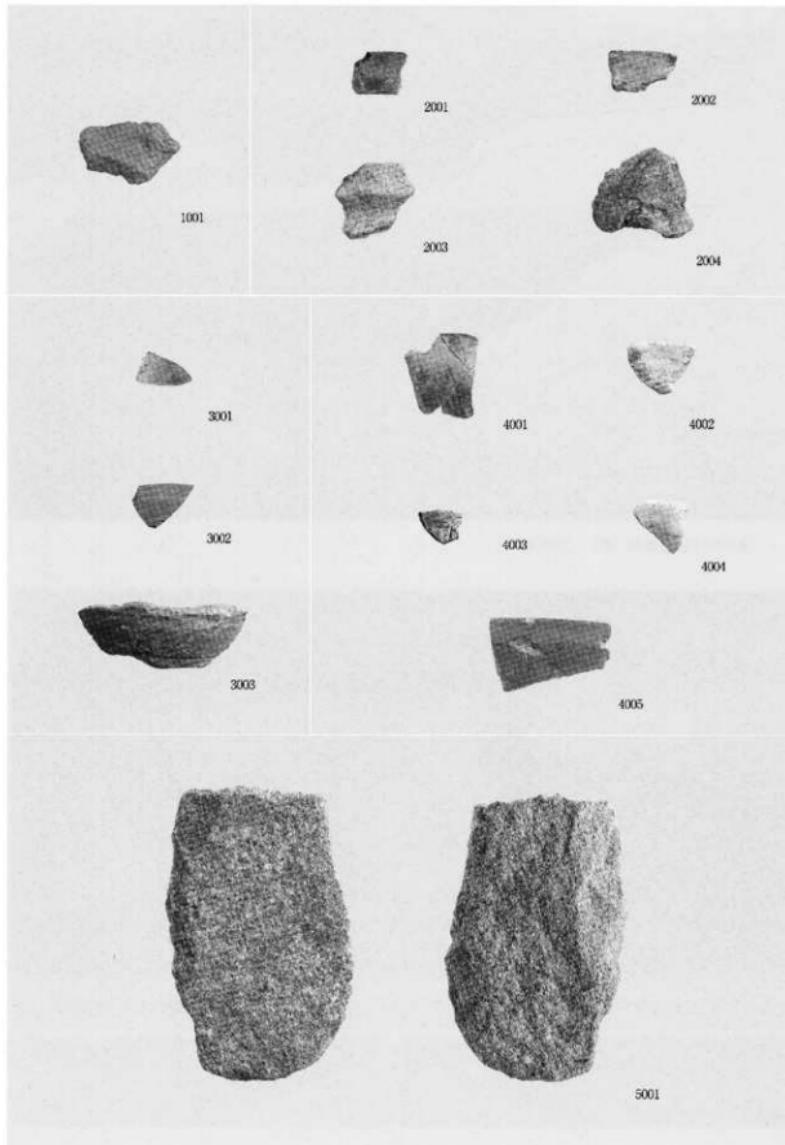
2. 土抗SK15完掘状況（北東） 22年度



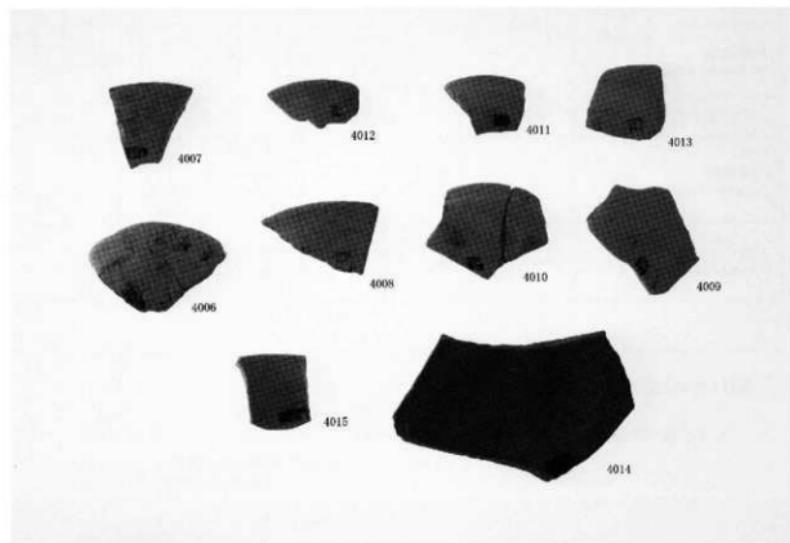
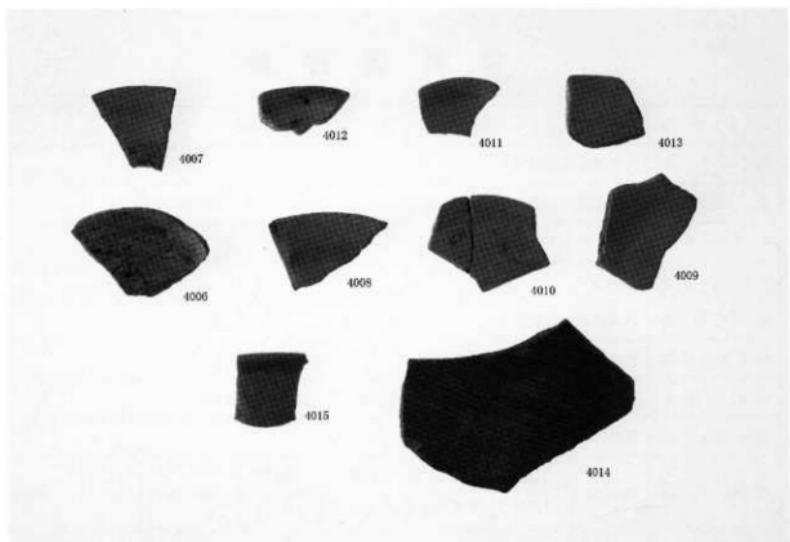
1. 清SD015土層断面（東） 22年度



2. 清SD15完掘状況（東） 22年度



出土遺物 土器類・打製石斧 21年度



土器類 22年度

## 概要書抄録

ふりがな	いしづかいいせきちょうさがいほう							
書名	石塚遺跡調査概報Ⅱ							
副書名	一般財戸山高岡線交通安全事業にともなう平成21年度、22年度の調査							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第69冊							
発行機関	高岡市教育委員会							
作業実施機関	株式会社エイ・テック（21年度） 株式会社上智（22年度）							
作業実施者	後藤浩之・澤田雅志（21年度） 藤田慎一・坂田雅人（22年度）							
発行年月日	西暦2010年12月28日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
石塚遺跡 (戸山高岡線平成21年度)	高岡市 石塚	016202	202158	36° 44' 02"	136° 59' 46"	20090715 ～ 20091015	232 m <sup>2</sup>	道路等整備
石塚遺跡 (戸山高岡線平成22年度)				36° 44' 00"	136° 58' 46"	20100614 ～ 20100709	309 m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石塚遺跡 (戸山高岡線平成21年度)	集落	中世	溝	打製石斧・弥生土器・古墳土師器・古代土師器・古代須恵器・中世土師器・珠洲				
石塚 (戸山高岡線平成22年度)	集落	中世	溝	中世土師器・珠洲・青磁				

高岡市埋蔵文化財調査概報第69冊

### 石塚遺跡調査概報Ⅱ

2010年12月28日

発行者 高岡市教育委員会  
富山県高岡市広小路7番50号  
印刷所 株式会社 トーザワ  
富山県高岡市佐野新町1386-1

